

令和5年度 三重大学教育学部附属幼稚園 教育ビジョン

附属学校園の共通教育目標

主体的、創造的に
生き抜く心豊かな
子どもを育てる

学校教育目標

心身ともに健康で 心豊かに
たくましく生きる子どもの育成

附属学校園のめざす子ども像

*正しいことや、美しいことを
求め、粘り強く行動する子ども
*お互いを大事にし、高め合お
うとする子ども

めざす幼稚園像

- ・健康な心と体が育つ幼稚園
- ・安全で安心して生活できる幼稚園
- ・夢中になって遊び込める幼稚園
- ・豊かな自然環境の中で四季を感じられる幼稚園
- ・家庭、地域に信頼され愛される幼稚園

めざす子ども像

明るく健康で
豊かな心情をもち
友達と考え合っ
てのびのびと活動する 子ども



めざす教師像

- ・保育に対する情熱と意欲をもった教師
- ・保育に対する向上心と研究心を常にもっている教師
- ・自身の教育（保育）観、仕事に対する自信と柔軟性もち、同僚を尊重し、協力しながら仕事を進めていこうとする教師
- ・温かく子どもを見守り、子どもの可能性を信じ、伸ばそうと努力する教師
- ・保護者と共に子どもの育ちを支えていこうとする教師

めざす姿の実現に向けて

幼児理解

- ・子どもの中に何が起きているか、何を感じているか、よく見て理解しようとする
- ・子どもの姿について考える、分析する

環境の構成

- ・子どもの姿、発達を考えた、意味のある環境の構成
- ・夢中になって遊び込める環境の構成

教師の援助

- ・発達、目指す姿を見据えたかわり、言葉かけ、表情、行動
- ・子どもの豊かな遊び、学びを引き出す援助

教師の資質向上

研究

【研究テーマ】ひととの対話が深まる保育環境の構成

- ・保育実践の記録、共有、協議
- ・大学、他園、他校種との協議
- ・教材研究、自己研鑽

連携

- ・附属学校…一貫教育 幼小接続（架け橋プログラム）
- ・大学…連携活動 共同研究 幼児教育講座
- ・こども教育センター…ICT 特別支援教育
- ・保護者…育友会 ボランティア
- ・預かり保育…保育をつなぐ
- ・地域…発信 つながり



教師の資質向上

幼児理解

- ・子どもの中に何が起きているか、何を感じているか、よく見て理解しようとする
- ・子どもの姿について考える、分析する

- ・・・評価できる
- ▲・・・課題・展望
- ・・・外部評価

重点目標	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
<p>幼児の姿のとらえ方 遊びの見方について深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育記録を丁寧にとる ・記録等を通して幼児の行動、気持ちなどを考える ・教師間で意見交換する ・幼児理解に基づいた環境構成と教師の援助について考える ・週案や月の指導計画に生かす ・記録や写真、動画を使っのカンファレンス ・外部の機関との連携 		<p>○各教員が保育記録の方法を工夫し、幼児理解に努めた。 ○日々の記録について、当初は全員が書き込めるフォーマットを作り、記録を作成した。 ▲上記の記録について継続することが難しかった。 ⇒記録方法についての定期的な見直し ⇒目的に応じた記録方法、共有の方法について検討 ⇒担当者のリーダーシップ ▲幼児理解について、研究テーマと重ねて園内研修会で話し合ったり、日々のちょっとした時間を使って話し合ったりすることが必要である。</p> <p>○附属学校支援担当の先生（大学院教育学研究科教職実践高度化専攻の教員）が継続的に来園し、幼児の様子を観察した。この記録をもとに管理職や担任と継続して支援の在り方について協議することができた。また月1回協議会の場を設け、気になる子についての理解とその援助について話し合うことができた。</p>
<p>友だちとの関係や関係 づくりについて深める</p>			
<p>幼児の発達について深める</p>			
<p>同僚性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話しやすい雰囲気づくり ・日常的なコミュニケーションの構築 ・相互参観を行い、協議する 	<p>相互参観年間3回</p>	<p>○日頃から保育前、保育後のちょっとした立ち話、職員室でのやり取り等での情報交換が行われ、話しやすい雰囲気は作られている。 ▲保育の質向上、教員の資質向上のためには踏み込んだ話し合いが必要である。</p>

- 教師の資質向上については附属幼稚園の中での課題なのか。附属の役割として附属学校園を他の学校園に活用してもらうこと、附属の実践を地域にどう還元するかについても考えていってほしい。
- 附属として求められていることをキャッチし、還元していくことが大切である。
- 相互参観はどのような形で行っているのか？県と高田短大が「自然保育協議会」というのをしており、附属の保育はかなりそこに関係する部分があると思う。そういうところと連携していくことも検討してはどうか。
- 各担任の自己評価について、書き方に統一性がないので、統一してはどうか。当初申告の項目に合わせて振り返ることができるようにしていくと良い。
- どれだけ自分が頑張ったか、わかるようにすると良いのではないか。
- 「目標」について書き換えが可能ならば、振り返りやすいものにしていくことも検討するとよいのではないか。

教師の資質向上

環境の構成

- ・子どもの姿、発達を考えた、意味のある環境の構成
- ・夢中になって遊び込める環境の構成

重点目標	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
幼児理解に基づく適切な保育環境の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による定期的な環境構成の相互参観と検討 ・園庭環境についての定期的な検討と再構成 ・砂や土、水を使った遊びを積極的に行う 		<p>○園庭環境について見直しを行った。</p> <p>○定期的に園庭で使用する遊具の点検、掃除、整理等を行い、安全で使いやすい遊具の管理が実施できた。</p> <p>▲保育室、テラスの環境構成についての教員間の参観、検討については必要に応じて行うにとどまり、継続的に行うことが難しかった。</p> <p>⇒年間計画に組み込むことで継続的に行うようにする</p> <p>▲子どもにとっての意味のある環境の構成について其々の教員では一生懸命取り組んでいるが、それを共有、学び合う時間が取れなかった。</p>
四季、自然現象への興味関心	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や草花の栽培、摘んで遊べる草花の栽培 ・教員自身が自然についての興味関心を深め、学び、保育に還元する 		<p>○「子どもにとってどのような環境が必要か?」「もっと○○であればよい」という観点で環境を見直し、気づいたところから少しずつ環境を作りなおしていくことができた。</p> <p>⇒バタフライガーデン、落ち葉の利用、フジバカマを植える等</p> <p>▲季節ごとの花、草花遊び、草花に集まる昆虫等について知識を深め、環境を整えていく。</p>
安全で安心な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による安全点検 ・安全指導と避難訓練の実施 	<p>毎月</p> <p>年度当初は特に重点的に安全指導を実施</p> <p>毎月の避難訓練実施</p>	<p>○教職員による毎月の安全点検を実施。危険箇所、修理が必要な箇所について教職員で修理、また業者に依頼して修理を行う。</p> <p>⇒業者による修理・・・園庭の木製舞台・一本橋・三角砦の修繕、鉄棒・ブランコ塗装</p> <p>○業者による遊具の安全点検を行う。</p> <p>○年度当初、また必要に応じて安全指導を行う。</p> <p>○毎月の避難訓練実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定した避難訓練 5回 ・引き渡し訓練 1回 ・火災避難訓練 2回 ・不審者訓練 1回 ・交通安全指導 1回 ・着衣水泳 1回 ・非行防止教室 1回 <p>○3月に「予告なし避難訓練」を行った。幼児はこれまでの訓練を活かし、自らダンゴムシのポーズでそれぞれの場所で避難し、教師の指示に従って非難することができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●環境がとても良い。広く体を動かせる環境、四季を感じられる環境をこれからも大事にしたい。 ●毎月の避難訓練は評価できる。いろいろな場面、方法でしていくことが大事である。例えば、教師がいない状況での避難訓練等、新たな状況を作り出して取り組んでいくことで改めて職員の気づき、検討課題も見つかる。 ●引き渡し訓練について四校園で一斉に行うことも検討していくと良い。 			

教師の資質向上

教師の援助

- ・発達、目指す姿を見据えたかかわり、言葉かけ、表情、行動
- ・子どもの豊かな遊び、学びを引き出す援助

重点目標	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
子どもの気持ちや考えを尊重した援助	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じたきめ細やかな言葉かけ（対幼児、対保護者） 		<p>○「子どもにとって何が必要か」「どのような経験が必要か」「どう育てほしいのか」ということについて日常的に考えられるようにした。子どもの立場に立って保育を考えたときに必要な言葉かけを其々の教員が考えることができた。</p>
健康な体と心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ニコニコタイム（登園後、全園児が園庭に出て体を動かすことを楽しむ）の実施 ・身体をしっかりと動かして十分に遊ぶことを大切にされた保育を行う 		<p>○ニコニコタイムは9月から実施する。長期休業明けで生活習慣を再度作っていくこの時期に、登園後に体を動かす活動を全園児でできたことは良かった。運動会に向けての準備体操もこのニコニコタイムを通じて繰り返し取り組むことができた。まだ9月は気温が高い日も多く、熱中症の危険性も伴うため状況に応じて行っていく必要がある。</p> <p>○身体を十分に動かして遊ぶことを保障できたと思う。</p> <p>▲クラス、学年によって程度の差があるのは否めない。時期ごとに全体で振り返る、子どもにとっての必要な経験について考えていくこと（教育課程の見直しにもつながる）が必要である。</p>
人への親しみ・信頼感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の保育を通して、友達とのつながりを作るような援助、言葉かけ、環境構成を行う ・全職員がどの幼児にも温かな気持ちで言葉をかけ、接する 		<p>○全職員が積極的に子どもに言葉をかけることができた。</p> <p>▲研究テーマを意識した言葉かけ、教師の在り方についての検討については不十分と感じる。</p>
コミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうちょの門、昇降口での積極的な挨拶 ・生活に必要な言葉の獲得に向けた援助 ・発達に応じた援助、ひととかかわる楽しさ、充実感を味わえるための援助 		<p>○園長、養護担当職員がちょうちょの門で送迎時に積極的に挨拶を交わし、保護者とのやり取りを行う。担任は昇降口での受け入れを行う。毎日のやり取りの中で幼児も自分から挨拶を行える子が増えてきた。保護者との協力体制も必要であると感ずる。</p> <p>○附属学校全体で挨拶運動と安全見守りを行っている。管理職が登校時に総門、交差点等に立ち、安全指導と挨拶運動を行う。どの校種も挨拶をする子が増えてきた。</p> <p>○子ども同士のトラブルや葛藤場面で教師は丁寧なかかわりを重ね、保護者にも経緯と今後の見通しについて伝え、共有した。</p>
異年齢の友だちとの交流	<ul style="list-style-type: none"> ・自然発生的な異年齢交流に加え、意図的に異年齢が交わって遊ぶ場を積極的に作る ・異年齢交流を通した子どもの学びの姿を明確にする 		<p>○昨年度から保育室の配置が換わったこと、きょうだい関係があること、預かり保育での異年齢遊び等によって異年齢交流がさらに活発になった。今年度から4、5歳児のペア弁当も再開し、行事や活動において意図的な異年齢交流を積極的に行った。</p> <p>▲「人との対話が深まる」異年齢での場面を明文化していない。</p>

教師の資質向上

その他 資質向上に関すること

重点目標	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
<p>幼児の発達理解、発達を意識した援助・取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月案検討、「遊びと生活」検討 ・教師間で日常的に保育と幼児についての情報交換を行う 	<p>毎月</p>	<p>○毎月初めに保護者に向けて「遊びと生活」を発信することができた。</p> <p>○「遊びと生活」に掲げたねらい、内容について保育の中でのどのように実現できたか発信することができた。</p> <p>▲上記のことについて昨年度から継続的に行っている。月初めのねらいと内容を意識し、毎日の保育計画と実際のかかわり、援助に生かしていくという保育の循環を目標にしているが、個人差が大きく難しい部分もある。教師の資質向上をさらに目指していく。</p>
<p>家庭との連携推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に行う学級懇談会等で担任から課題等について説明をする ・三重県教育委員会が実施している「生活習慣チェックシート」の実施と分析、結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会 年間3回 ・個別懇談会 年間2回 ・生活習慣チェックシート 年間3回実施 	<p>○生活習慣等についての言葉かけは必要な場面、幼児に応じて都度行い、教員間でも共有することができた。</p> <p>○学級懇談会、個別懇談会では子どもの園生活の様子を具体的に写真で示しながら伝えた。成長しているところ、課題等を共有することができていた。</p> <p>○生活習慣チェックシートは毎回7割程度の提出があり、積極的に取り組んでもらっている。</p> <p>▲生活習慣チェックシートについての分析、フィードバックができていなかった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園時等に保護者と積極的にコミュニケーションをとり、幼児の様子や幼稚園生活について伝えるなどの情報交換を行う ・クラスだよりや写真掲示などで園生活の様子を伝える 	<p>・クラスだより 月2回以上</p>	<p>○登降園時やスマイルタイムを活用して保護者との積極的なコミュニケーションをとることができた。預かり保育が開始され、お迎えの時間が分散するようになった。担任は可能な限り預かり保育利用の保護者にも積極的にコミュニケーションを取るようにした。</p> <p>○毎月初めに発行する「遊びと生活」に基づいた内容のクラスだよりの発信ができた。</p> <p>▲子どもの遊びのとらえ方、幼児理解と援助について各教員の質の向上が求められる。</p> <p>▲写真の掲示は視覚的には保護者に訴えやすいが、園が保育の中で大切にしていることや意図、工夫等までは伝わりにくい。この部分を工夫していく必要がある。</p>

教師の資質向上

研修会の開催

研修会内容	日程・回数	内容	参加者
相互参観	5月～6月 3回	学年ごとに保育を公開し、保育終了後協議を行う。特に今年度の研究テーマである「ひととの関わり」に着目した内容で話し合いを深めた。	附属学校教員、大学教員、津市内幼児教育関係者
附属間合同研修会	8月 1回	・東海地区附属学校研究協議会では東海3県の附属幼稚園が集まり、令和3年度文科省委託研究事業で作成した研修動画を基に研究協議を行う。	東海3県附属幼稚園教員
公開保育研究会	11月11日 (土)	参加者を50名に限定して、公開保育研究会を行った。県内外からの幼児教育関係者、大学教員、附属学校教員が参加。午前は保育参観と保育説明、午後からは研究報告、パネルディスカッション、講演会を行う。パネラーは三重大学名誉教授河崎道夫先生、附属小学校教諭、本園教頭。河崎道夫先生による講演会「遊びを中心とする保育に向けて」は参加者から非常に好評であった。	県内外幼児教育関係者 大学教員 附属学校教員
佐々木 晃先生との研修会	1月31日 (水)	鳴門教育大学大学院教授の佐々木晃先生をお招きして、研修会を行った。午前中は保育参観、午後からは研究協議と佐々木先生のお話。午前の保育に関わって日頃の担任の思いや悩みなど出し合い、研究テーマと絡めて話合った。	附属学校教員 津市教育委員会 津市内公立幼稚園教諭
園内研修会	通年	保護者に向けて毎月発信している「遊びと生活」のねらいからひととの関わりの部分についての事例を出し合い検討を重ねた。	教員
特別支援園内委員会	各月 最終月曜日	継続的に子どもの姿を見に来てくださっている教職実践高度化専攻の教員と共に子どもの姿について事例を出し合い、子ども理解を深め、教師の援助の方法について協議する。	教員 大学教員

研究

研究テーマ「人との対話が深まる保育環境を考える ～遊びこむ姿をめざして」

重点目標	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・展望
園内研修の充実と推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践の記録を取り、事例を教員で協議する ・教育課程と子どもの姿の見直し、再編成を行う ・「ひととの対話が深まる」要因、環境について考察する 	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回 	<p>○事例の書き方については、写真を用いるなどしてとりかかりやすい形を工夫した。これにより話し合うことに重点がおかれ、教員間の話し合いが活発に行われ、保育について考えを深めることができた。</p> <p>○研究報告書を作成することができた。</p> <p>▲研究の内容面においてもっと掘り下げて考える必要がある。</p> <p>⇒担任の業務多様化と業務量、働き方改革と研究を進めていくこととのバランスが難しい。</p> <p>▲一部の教員への負担増。</p> <p>▲園内研修会においては教員の人数が少ないため内容に変化が乏しくなりがちである。教育学部の先生や他の幼稚園、幼児教育関係者、附属学校教員等と共に研修をする機会を積極的に作っていくようにする。</p>
他機関との交流による学び	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・他園・他校種と共に話し合い、学ぶ ・他園の研修会参加 		<p>○相互参観、授業参観、公開研究会を通して小学校と協議をする機会が増え、お互いの子どもの姿をより深く見て、考えることができた。小学校とは今後架け橋プログラムを意識して研修を重ねていきたい。</p> <p>○津市内の公立幼稚園の公開保育研究会、他附属幼稚園の公開保育研究会に参加し、多くの学びを得た。次年度も積極的に他園の研修会に参加する機会を作っていくようにする。</p> <p>●相互参観について、どのようにしているのか知りたい。参加させてもらえるとありがたい。（私立幼稚園より）</p> <p>⇒参観、協議会への参加園の間口を広げ、広く参観してもらえそうな体制を作りたい。本園が地域、県のハブ的な役割を担うことで必要とされる園として存在できるように多面的に工夫を重ねていく。</p>
教材研究・自己研鑽の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつもと同じ」「昨年同様」にならないように子どもの姿や状況に応じた保育計画の見直しと保育内容の工夫をする ・新しいことへのチャレンジを目標にする 		<p>○各担任、各学年でそれぞれが取り組む形であった。個人の意識に左右される部分もあるので、組織として（園全体で）目標を持ち取り組んでいけるとよい。</p> <p>○園全体で取り組む行事については、全員で検討することができていた。</p>

連 携

連携対象	具体的な手立て	目標値等	評価・課題・今後の展望
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭と共に幼小接続の充実に向けて話し合いの場を持つ ・小学校教諭と積極的な情報交換、保育・授業参観、意見交換をする ・小学生と幼児との交流の場を持つ ・一貫教育において、附属学校園の教諭と共通の課題について協議する ・中学生と幼児との交流活動の継続 ・特別支援学校との交流 		<p>○今年度、教育学部での「教員の資質向上プロジェクト」の中で「幼小接続プロジェクト」が立ち上がった。大学、小学校、幼稚園の教員がプロジェクトに参加する中で、幼稚園での相互参観、公開研究会等で小学校教諭が積極的に参加した。また幼稚園教員も小学校の授業参観に積極的に参加し、協議を行っている。</p> <p>▲小学生と幼児との交流は今年度は少なかった。来年度意識して行っていく。</p> <p>○一貫教育について、他校種の教員とじっくり話せる貴重な機会となっている。形骸化してきている面もあるので、マイナーチェンジ、軌道修正等の見直しが必要か。</p>
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員と附属学校園との連携活動を継続し、さらに充実させる ・大学教員の幼稚園参観の機会を作る ・学生、大学院生との交流、連携の機会を作る 		<p>○連携活動については昨年度まで行っていたことは同様に行った。</p> <p>▲新たな連携活動の開拓には至らなかった。年長組が1クラスになったことも影響している。今年度の課題を次年度に生かしていく。</p> <p>○大学院生が幼児の砂場遊びについて興味を持ち、継続して観察をしている</p>
様々な機関	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援等に係る津市教育委員会との連携 		<p>○就学に関して、津市教育委員会と連携を取り、保護者も交えて話し合いの場を持つ、小学校参観の機会を作る、小学校との話し合いの機会を作るなど積極的に進めることができた。</p>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿や保育について丁寧に伝える ・育友会活動の協力、保護者と園と一緒に子どもを育てていくというスタンスに立ち、子どものためにできることを共に行う 		<p>○担任は子どもの姿を通して保護者とつながり、管理職は主に育友会活動の進め方等について連携を取りながら行うことができた。</p> <p>▲育友会活動については働く保護者の増加によりその在り方について今後も見直す必要がある。</p> <p>●保護者アンケートについて項目の見直し、問い方について数年ごとに検討してはどうか。</p> <p>●育児相談について、していることをアピールする手立てが必要であろう。</p> <p>●給食を希望する保護者が多いと思う。津市の私立に聴いてみたり連携をとって進めていくのはどうか。</p> <p>●アレルギーや給食をめぐる事故にも配慮しながら検討していく必要があろう。</p>
預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・就労等により通常の保育時間外に幼児を預かる ・降園後のような家庭的な雰囲気づくりを目指すとともに子どもの様子について丁寧に保護者に伝える 		<p>○今年度より開始した預かり保育は、まずまず順調に進めることができた。今後は預かり保育時間の内容面、担当教員との連携等について改善を図る。</p>
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の会の実施 ・幼稚園の情報発信 	20組の未就園親子年間15回実施	<p>○未就園児の会に参加を希望する年齢層が従前よりも低くなっている。それに伴い活動内容の工夫が求められてきている。今後さらに工夫していく。</p> <p>○3月幼稚園のインスタグラムを開始</p>

連携活動

	小学校	中学校	特別支援学校	大学
1	5月～6月 教員 相互参観、授業参観への参加 事後検討会への参加	5月～6月 全園児 5回 中学校3年生との交流	6月 年長児 ジャガイモをもらいに	家政教育講座 学生参観、行事（カレーパーティー） の補助
2	7月 教員 生活科の授業参観	9月 全園児 中学校体育祭の見学	7月 保護者（園児） 野菜販売	英語教育講座 中川先生 年長児「えいごで遊ぼう」2回
3	8月 教員 小 夏季研修会参加	10月～11月 全園児 4回 3年生との交流活動 ②	9月 年長児 Tシャツの受け取り お礼に歌をプレゼント	国語教育講座 林先生 年長組 筆体験
4	11月 教員 生活科の授業参観	12月 全園児 クリスマス会への参加 (校長)	11月 年長児 ジャガイモのお礼にサツマイモを届ける	理科教育講座 伊藤先生 星を見る会 開催
5	11月 教員 幼稚園の研修会に参加 パネラー 事後の話し合い			保健体育講座 後藤先生 年長組 親子活動
6	11月 教員 小学校の研究会に参加			幼児教育講座 富田先生 水津先生 公開保育研究会 指導助言
7	1月 教員 幼稚園の研究会に参加			保健体育講座 岡野先生 加納先生 年中組 親子活動
8	3月 教員 年長児の様子を参観			幼児教育講座 富田先生 コアラの会
9	3月 年長児 1年生 小学校での交流活動			保護者向けコラム発信 3回
10	3月 教員 年長児の姿について引継ぎ			学生による人形劇 観劇 2回 全園児

